

第 120 回 日本外科学会定期学術集会特別企画で発表しました (2020/8/13-15)

テーマ：命と向き合い外科医として生きる

場 所：Web 開催

2020年8月13日(木) - 15日(土)の3日間、第120回日本外科学会定期学術集会在初めてオンライン開催され、佐々木宏之准教授(災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野)が第120回特別企画「外科医として生きる(4) 命を見つめて、それぞれの道を生きる外科医たち」で講演しました。Zoomを用いたプレゼンテーションがYouTubeでリアルタイムライブ配信される形で、会議室には約150名の聴衆が接続していました。

日本外科学会は、明治32年4月1日に設立された国内でも有数の長い歴史を持つ学会です。会員数約4万名、通常は会期中1万名を越す外科系医師(消化器、呼吸器、心臓・血管、乳腺・内分泌、小児、救急・外傷などの各外科)が一堂に会し、各領域での最先端の治療・研究成果を発表する、国内外科系最大の学会です。第120回を迎えた今回は、当初「大還暦」として4月にパシフィコ横浜で大々的に開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み日程自体を延期、さらには現地開催から完全web開催への移行など、日本外科学会にとっては初めて尽くしてました。学術集会会頭を務めた北川雄光慶応義塾大学教授(医学部外科学)は「むしろ早い時期に完全webの方針を決定し、完成度の高い「完全web開催」を追究した」とし、その言葉の如く学会自体の運営もスムーズで、リアルではないweb開催のメリットとしてweb discussantや一般会員によるライブチャット発言、全プログラムの今後2ヶ月間のビデオオンデマンド(VOD)配信(その間いつでも演者に質問可能)など、会頭の目指したweb開催のメリットが至る所に見受けられました。何より日頃、手術等で忙しい外科医が予定をやり繰りして現地に行かなくても様々な講演を聴ける点、コロナ感染の恐れのない点は最大のメリットと感じました。

佐々木准教授の発表したセッションでは、交通事故や大病で自らの生命の危機に直面した外科医がその後の医療者としての人生をどのように生きてきたか、キャリアチェンジや患者さんへの接し方にどのような変化をもたらしたかを、若手外科医や学生向けに講演しました。佐々木准教授も消化器外科医から災害医学の道へキャリアを変更したいきさつ、葛藤、現在の活動などについて幅広く講演し、総合討論でも「自らの生命」「生きるよりどころ」「命・生きる」といったテーマについて発言しました。

この模様は日本外科学会HP及び医療従事者専用サイト「m3.com」で10月末まで公開される予定です。

演題タイトル

経歴紹介

キャリアチェンジの理由

現在の活動紹介

外科医の頃と考え方は変わらない

若手外科医へのメッセージ